

## ルクセンブルク経済・金融情勢（2013年4月後半）

### 1. 経済

- カーゴルクス社、24日の株主総会にて、2012年には17億3890万米ドルの収入に対して▲3510万米ドルの純損失を計上したが、右は2012年予算策定時の見込み損失額▲5700万ドルよりは少ない旨を発表。（24日付ヴォルト紙電子版）
- ルクセンブルク市観光局によると、2012年の同市への観光客は2011年比2.77%増。（18日付ヴォルト紙電子版）
- 3月の失業率は6.6%（2月は6.4%）。（23日付統計局プレスリリース）
- 2012年の当国の国際収支は、貿易収支が61億ユーロの赤字で、前年比▲7億ユーロ。特に金属製品の輸出低下が顕著であった。他方、サービス収支は231億ユーロの黒字で、前年比+17億ユーロ。（23日付ヴォルト紙）
- ルクスエアー社、6月3日よりコペンハーゲンへの往復便を土曜日を除く毎日運航する。（23日付ヴォルト紙電子版）
- 4月の消費者信頼感指数はやや回復し▲6（3月は▲7）であるが、過去の平均よりも低いままである。（29日付統計局プレスリリース）
- カーゴルクス社、27日に英専門誌Air Cargo Newsにより、「Best Freighter-Only Airline」賞を受賞。（29日付ヴォルト紙電子版）
- 独大手メディアグループのベルテルスマン社、RTL社の株を17%売却し14億ユーロを回収する予定であると29日に発表。ベルテルスマン社は、RTL社株を92.3%所有している。（30日付ヴォルト紙電子版）

### 2. 金融

- 国立貯蓄銀行（BCEE）、2012年の利益は1億9820万ユーロで、前年比6.1%増。（19日付ル・コティディアン紙）
- 当国政府、ジャージー島及びマン島との二重課税防止条約に署名。（19日付ペーパージャム誌電子版）
- 2013年第1四半期の当国銀行セクターの引当前利益は、1兆2750億ユーロ（前年同四半期比▲9%）で、右は2008年の水準にまで落ち込んでいる。（20日付ヴォルト紙）
- 2013年3月末時点の当国所在の銀行における就業者数（暫定値）は、26,390人で、2012年12月末時点に比べ144人の減少。（25日付中央銀行コミュニケ）
- BIL、2012年の純利益は3000万ユーロで、2011年比10.4%

増。2012年には顧客による預金残高が22.4%増加した。右は、BILのカタール系投資グループであるプレジジョン・キャピタル社による買収後初の決算。（26日付ヴォルト紙電子版）

### 3. 政府

●ユンカー首相及びフリーデン財相、ワシントンにて19日及び20日開催の国際通貨基金（IMF）・世界銀行春季総会に出席。期間中、ユンカー首相は米経済諮問委員会（CEA）のクルーガー委員長と会談。フリーデン財相はスイス、オーストリア、独、シンガポールと二国間会談を実施し、税務情報に係る自動情報交換につき意見交換を行った。（18日付及び21日付政府公報）

●フリーデン財相、22日にロンドン開催の金融機関会合であるLondon City Weekに出席し、同会合での演説にて、当国は英による金融取引税（FTT）に対する法的措置を支持する旨表明。（22日付政府公報）

●フリーデン財相、26日に財政予算委員会にて2013年第1四半期の財政状況を発表。2013年第1四半期の税収は、前年同四半期比2億8940万ユーロ増（+10.6%）であるが、右は例外的または季節的な現象であると述べた。（26日付政府公報）

●フリーデン財相及びシュナイダー経産相、26日に2013-2016年の安定計画の方針及び国別改革計画である「ルクセンブルク2020」を発表。右は、欧州セメスター制度に基づき欧州委員会への提出が求められている。（26日付政府公報）

※ 当国政府機関の公表資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。